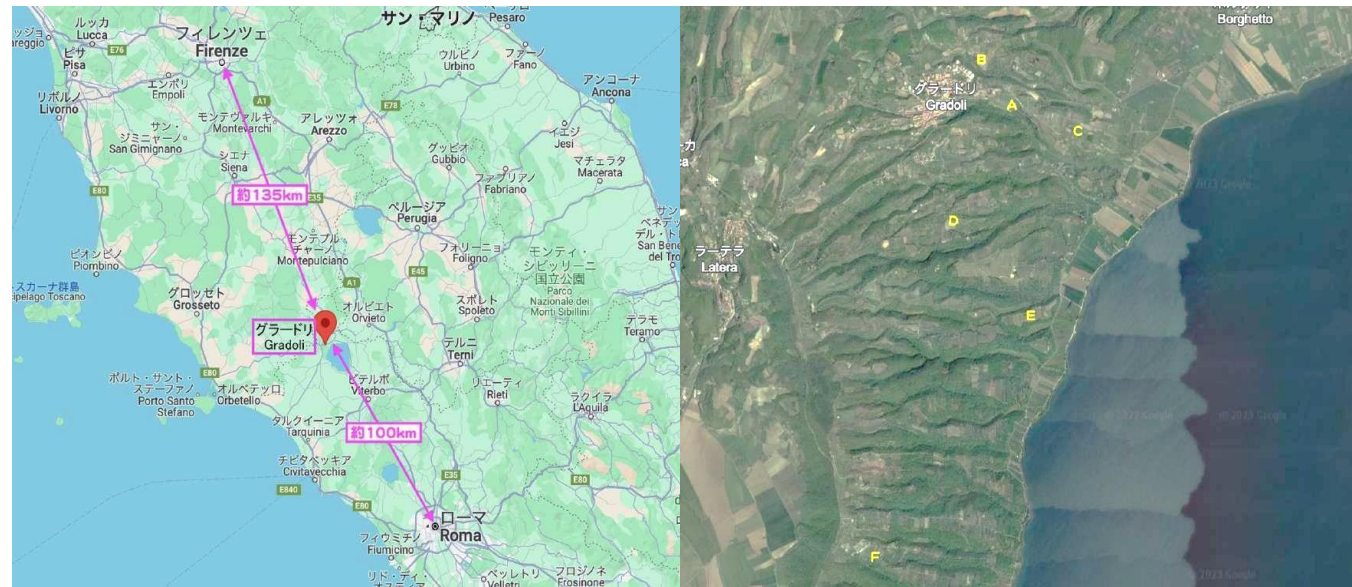




## Le Coste レ コステ イタリア ラツィオ州ヴィテルボ県グラードリ

2005年、ラツィオ州北部ボルセーナ湖畔グラードリに植樹した畑の名がLe Coste (湖岸の意)。ジャンマルコ アントヌーツィがフランスでの経験と考えるすべてをつぎ込んだ畑。

ボルセーナ湖畔北西部、カルデラ湖のため標高が高く、湖面で標高305m。畑の標高は450m以上の場所が大半。畑はおおよそ東南東～南東に向き、土壌を重要視している。ボルセーナ湖畔の火山性土壌の特徴は、過去におきた2種類の噴火(1度目はマグマ性の噴火。2度目は水蒸気型に噴石が混ざる噴火)。異なる2種類の火山性土壌、地質が混ざり合うポジションを厳選している。



Basaltバザルト(玄武岩)、赤みを帯びたものは鉄を多く含んでいる



Lavaラーバ(溶岩石)多孔性で内部に空気や水分を保つ働きがある

そして現在、大きく分けて6か所に分かっている畑はそれぞれ、上記のような土壌特性が複雑に入り乱れた土壌ばかり。そしてそれぞれの土壌に適したブドウを植えるというレ コステの哲学。

トスカーナにほど近く、標高も高い、火山性土壌が複雑に入り混じった土地。2000年代には全くと言っていいほど、評価されていなかったヴィテルボの可能性を見出し、ゼロからのスタートを切ったレ コステ。

マグマ噴火では溶岩流が中心に流れ溶岩石や玄武岩が生成される。対してマグマ水蒸気噴火では、水蒸気、火山ガスを中心に、軽量の火山性成分、火山灰、軽石、が混ざる。堆積、圧縮される事で凝灰岩、火山礫岩、そして重要視しているPiankaと呼ばれる火山碎屑岩が生成される。火山由来であり、さらに多様性を持つボルセーナの土壌は、唯一無二の存在だと語るジャンマルコ。標高が高く基本的に冷涼なグラードリ、さらに昼夜の気温差があり、土壌は火山由来のミネラル豊富であり、表土は貧しくカロリーが少ない。強さではない繊細さ、複雑さを持ったブドウが収穫できる土地。



Piloピーロ(火山礫土壌)ピアンカのように圧縮されたものではなく、細粒状の土壌。火山灰由来、ジャンマルコ曰く「酸を与える土壌」



Piankaピアンカ(火山碎屑岩(凝灰岩)水蒸気爆発に混ざり込んだ火山性物質にガス、軽石や重量の軽いものが多いピーロと同様にLe Costeの特異性を表現する最も重要な土壌



Pozzoranaポッツォラーナ(火山灰由来)、Pomiceポミチェ(軽石)細粒状で、土壌の多くを占めている。保水性、多孔性をもつ。

### ブドウ樹の仕立て

Le Costeの畑は非常に低いアルベレッコ仕立。春、剪定が終わったばかりの樹は雑草で隠れてしまうくらい低い。樹ひとつごとに支柱が立てられている。下をよく見るとブドウ樹が確認できる。地表から10cm程度という低さ、より根に近いところに結実する＝根からの要素を効率よく果実に伝えるため。

また樹の部分が短い事は、成長するためのエネルギーも少なく済む＝樹の寿命が長くなる、言う考えから。ジャンマルコ曰く、「100年、200年と寿命を重ねるブドウ畑がレ コステのテーマ」。

1. 樹同士の感覚が狭く、競い合って根を深く伸ばす。
  2. 仕立てが低く果梗が短い、スペースが無いため結実する房が小さく、少ない
  3. 樹が大きく育たない(地上部分)ため、樹の負担が少ない。寿命が長くなりやすい。
- 仕立、剪定によって畑ごとの収穫量を決めている。よって畑、ブドウ樹との相性で、グイヨー式も取り入れている(ピノワール、モスカート、シラー、ect)



2016年3月新芽が出る前のLe Costeの畑。地表に出ている部分はほとんどない



### 収穫について

支柱に沿ってタテに伸びた樹、葉は切らずに隣の樹と絡めてアーチ状に。春の写真と同じ低い位置に結実しているのが分かる。

レ コステの考え方は、樹1つずつの収穫量。

スペースが無いため、房は小さく1つ100~200g程度

3~4つの房がジャンマルコの考える理想(最高)の収穫。

グリーンハーヴェストは基本行わない。かと言ってすべての樹が写真のように結実する訳ではない。もちろん例外はある。その中で選別して収穫を行う事で、そのぶどうがどのワインになる(前提)かを考えて収穫している。

例えば、

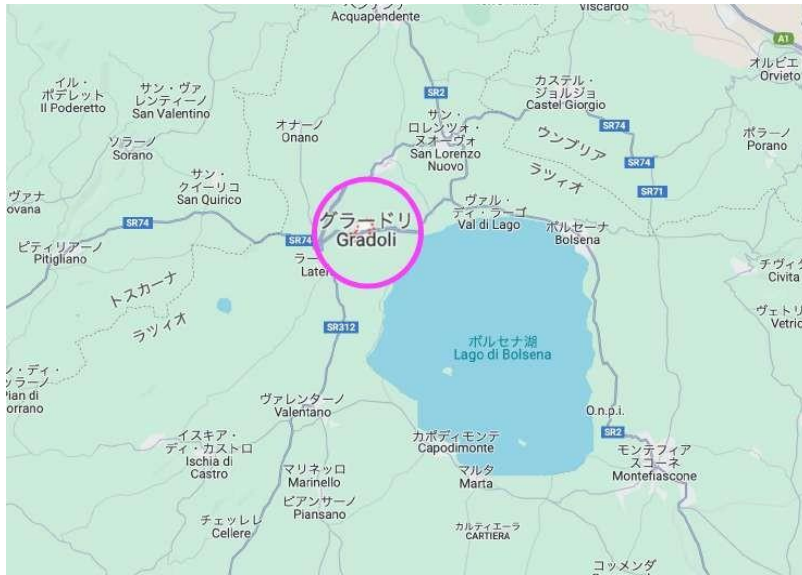
1本の樹から3~4つの房、200gの収穫量=Cru Le Coste

1本の樹から4~5つの房、400gの収穫=Bianco R,Rosso R

### 醸造について

ブドウ以外何も添加しない(SO2などを含め)醸造方法を貫いている。レ コステの畑や、ラ キエーザの畑のように、基本的には畑ごとに収穫し、それぞれ醸造を行う。醗酵に使用するのは、基本縦型の大樽だが、ワインの容量はマセレーションの用途によって変化する。その大前提は、収穫したブドウの完成度やポテンシャル。ヴィンテージの良し悪しによって大きく変わる。さらに近年は、キュヴェそれぞれに「時間」をかけてからリリースしている。ポテンシャルのあるワインは、それだけの時間を費やす、という考え。





ボルセーナ湖畔北西部、カルデラ湖のため標高が高く、湖面で標高305m  
畑の標高は450m以上の場所が大半。畑はおおよそ東南東～南東に向けた部分が多い  
土壌をとて重要視しており、ほとんどが古くからブドウ畑だった場所(放棄されている場所も多い)

ボルセーナの火山性土壌の特徴は、過去に2回の大きな噴火が起きている。

1度目の噴火はマグマ性の噴火(溶岩流、玄武岩質)

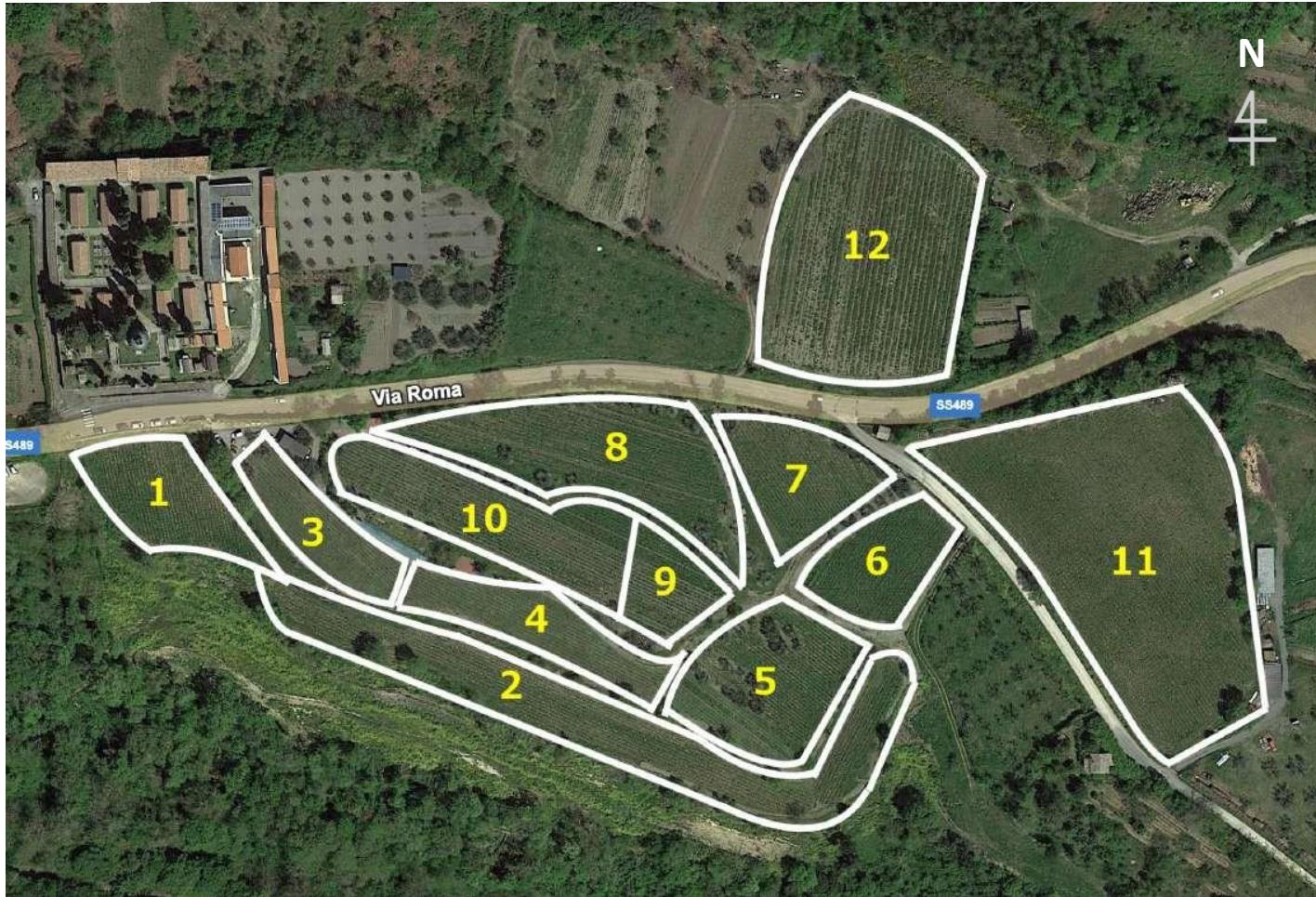
2度目はピーロ、火山灰、水蒸気型に噴石が混ざったもの(火砕流、火山礫岩、凝灰岩)。

異なる2種類の火成岩、凝灰岩が混ざり合うポジションを厳選している。

2023年時点でのすべての畑のポジションを、地図上にアルファベットで表示。

スタート当初はCru以外借りている畑がほとんどだったが、この20年間で自分で買い、植樹した畑が中心となっている。





- A**
- 1 Terrazza sotto  
テラツツア・ソット
  - 2 Terrazza sotto  
テラツツア・ソット
  - 3 Grotte alte  
グロッテ・アルテ
  - 4 Grotte basse  
グロッテ・バッセ
  - 5 Punta  
プンタ
  - 6 Quadrato  
クアドラート
  - 7 Triangolo  
トリアンゴロ
  - 8 Moscato  
モスカート
  - 9 Poggio  
ポッジョ
  - 10 Poggio  
ポッジョ
  - 11 Chiesa  
キエザ
  - 12 Colombo  
コロンボ

ワイナリーのスタートと言える土地「Le Coste レ コステ」、東南東にボルセーナ湖が位置し、湖に向かってせり出したテラス状の台地。

正確には3～8までが当てはまり、2005に植樹したピエディフランコ(自根)にて植樹。

## 1.2.Terazza Sotto テラツツァ ソット

Cru Le Costeの畑が斜面にせり出した台地(テラス状)、その1段下にあるので、Terazza(テラス)、Sotto(下)、という名前。

植樹は2014。1はサンジョヴェーゼ、2にアレアーティコ、ヴェルメンティーノ。仕立てはアルベレッコ、

Le Costeの畑とほぼ同じだが、樹の高さが5~10cmほど高く、間隔は130cm×100cmと少し広い。Cruよりも表土がやや多い事、一段下がって周囲の森に近いので湿気が溜まりやすい事を考えている。

土壌はLe Costeに近い。バザルト、ラーバ、ピアンカが多く、表面には砕けたピーロ、トゥーフオ、ポッツォラーナ、火山礫の多い土壌。このブドウはベース的な用途になる可能性が高い。Rosso、Rosato、Bianco(ヴェルメンティーノ)、Primeur,,,

### 1.グレゲットの区画



### 2.アレアーティコの区画



### 3.Grotte Alte グロッテ アルテ



### 4.Grotte Basse グロッテ バッセ



Cru Le Costeの一つ、Cruはすべて標高430～450mの位置にある。畑の前に天然の洞窟(Grottaグロッタ)があったことから、緩やかに下っていて、高い方がアルテ、低い方がバッセ。

ブドウ樹はアレーティコ、2005年にジャンマルコとクレメンティーヌで植樹、自根(ピエディフランコ)、超低仕立、間隔は80cm×100cmと、最も過酷であり、初めから収穫量を少なくする目的で植えられた。

果梗の位置が低く短いことで、果実が結実できる場所が少ない→結実しにくい→グリーンハーヴェストを行わずとも、収穫量が少なくなる、という考え方。

ピアンカが多く、バザルト、ピーロ、トゥーフォ、樹齢も重ねており、火山礫よりも表土が出来上がり、非常にバランスが取れている印象。Alea Jacta Estになるブドウ(Alea VVは別の畑)が収穫される。

## 5.Puntaプンタ

## 6.Quadratoクアドラート

## 7.Triangoloトリアンゴロ



Cru Le Costeの中心部に位置する3つの区画

それぞれ意味は、Punta:ポイント、点。Quadrato:四角形の、。Triangolo:三角形の、。畑の形状から付けた名前。プンタもGrotteと同様に2005年植樹、自根のアレアーティコ、Alea Jacta Estの一部

クアドラートはグレゲット、基本的にCru Rossoになるが、Poggioとの違いが大きく出た場合は、Carboとして醸造される(梗の完熟、果皮の健全なブドウのみ選別)グレゲットとはサンジョヴェーゼ全く同じDNAであるが、VVの樹齢50年以上の樹より採取したもの。

トリアンゴロはプロカーニコ、VVの樹より枝を取る。Cru Biancoに入るプロカーニコ(他の多品種はMoscato、La Chiesaより)。3つとも2005年植樹、超低仕立のアルベレッコ。すべて自根で植樹されている。1本の樹から2~4房、合計200~400g(1つの房が100g~200g)という収穫。

5.プンタ



6.クアドラート



## 8.Moscatoモスカート



モスカートはその名の通りモスカートの畑、2005年植樹、ピエディフランコ。モスカート以外にもmalvasia di candia e toscana, vermentino, roscetto, pedino, romanesco, greco antico e ansonicaと地品種が植わっており、Cru Biancoに加えられる。

当初は超低仕立てのアルベレッコにしていたが、モスカートのキャラクター的にアルベレッコが適していない(果梗、結実の問題)ため、途中でグイヨーに切り替えている。ブドウはDue MIになるもの。

ポッジョもそのまま丘(頂点)の意。Cruで一番標高が高く(450m)、グレゲット(2005年植樹)、ここも他のCruと同じ自根、アルベレッコ。ワインはCru Rossolになるグレゲットが収穫される。

## 9.10.Poggioポッジョ







## 11.Chiesa キエーザ

キエーザの意味は教会。道路に面した部分に、小さな教会(祠のような)がある畑、Cruの畑と隣接。2010年に植樹、この畑は枝はVVから取っているが、台木を使っている(畑でつなぐ方法)。ブドウはプロカーニコ、グレゲット、Cru Biancoに入るVarieta8種も栽培されている。仕立てはCru同様 超低仕立のアルベレッロ、100cm×100cm。

ワインはBianco R、Rosso Rとなるブドウが収穫される。

収穫量は樹単位、1本の樹から300g~500g、房の数が多く、小さいものが理想。

コロンボは2021年に植樹、2023年時点ではまだ収穫していない。良ければ2024年より、少し収穫できるのではないかという。ブドウはモスカートとアレアーティコ。



## 12.Colombo コロンボ



畑名の由来となった隣接する祠(la Chiesa)





- B**
- 13 Cavarella  
カヴァレッラ
  - 14 Querciennali  
クエルチェンナーリ
  - 15 Romolo  
ロモロ
  - 16 Chiavarelli  
キャヴァレリ
  - 17 Castiglioni  
カスティリオーニ
  - 18 Terrazzo Vecchio  
テラッツォ・ヴェッキオ

Le Costeの畑より北西にすぐの場所。ジャンマルコの言うVigne Vecchieヴィーニェヴェッキエ(高樹齢の畑)のあるテラッツォ ヴェッキオ。創業当初は畑を借りていたものの、周辺の土地と合わせて途中で購入し(2016～)、植樹。Cruの畑にあるプロカーニコ、グレゲット、アレアーティコ、モスカートだけでなく、新しく植樹する苗木は、この畑より枝を取り苗木を自ら作っている。

14.Quercennaliクエルチェンナーリ



15.Romolo ローモロ



クエルチェンナーリは2016年に植樹。Cruの畑より北側の斜面を登る、標高は470mと少し高い場所。もともとはVVがあった場所。VVは今は自身で購入している、その周りに作った畑の一つ。Cruよりも表土が厚く、火山性土壌の上に粘土質がある。この辺りは低めのグイヨーに仕立ててある。台木を使い、枝はVVより取ってきた。グレゲット、シラー、ピノ。このピノ ノワールはブルゴーニュから持ってきたクローンと、PNTから取ったクローンが植わっている。ここ道路を挟んだカスティリオーニのブドウでPinottoI becoming。Nini,Luluのシラーもここから来ている。

ローモロは2020年植樹、ブドウはアレアーティコ。23年の収穫で少しプリムールに入っている。

### 16. Chiavarelli キャヴァレツリ



### 17. Castiglioni カスティリオーニ



キャヴァレツリは2021年に植樹、アンソニカ、ヴェルメンティーノ。まだ収穫などは行っていない。赤色の強い粘土。

カスティリオーニは2017年の植樹。アレーティコ、ピノ ネーロが植樹されている。アレーティコはロザート、プリムールとなり、ピノは Pinottoに入る。0.5ha、仕立ては低めのガイヨー式。クエルチェナーリと同じく、粘土質が強いのが特徴。

### 18.Terazzo Vecchio テラッツォ ヴェッキオ(V.V)



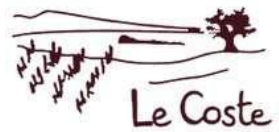
テラッツォヴェッキオはカスティリオーニの隣、一段下がった位置にある高樹齢の畑。Cruをはじめこのプロカーニコ、アレーアティコ、グレゲットをベースにセレクション マサールで植樹されている。

以前は借りていたが、現在は土地を手に入れている。1950～60年代に植えられた畑。火山性土壤に粘土質が加わった畑。ブドウはそれぞれ、Le Vigne piu Vecchie,Rosso Piu,Paino,Alea VVとなる。

ただし、良年のみ単一でボトル詰めされるが、毎年必ず造っている訳ではない。カヴァレッタは小さい洞穴があったことで名付けた畑。V.Vと同じく高樹齢のプロカーニコ、グレゲット、ヴァイアーノが残っている。Le Costeの畑の樹はこことV.Vから枝を取っている。(セレクションマサール)Le Vigne Piu Vecchie,Rosso,Rosso piu になるブドウが栽培されている。

### 13.Cavarella カヴァレッタ





èVino

C

## 19 Vigna Grande

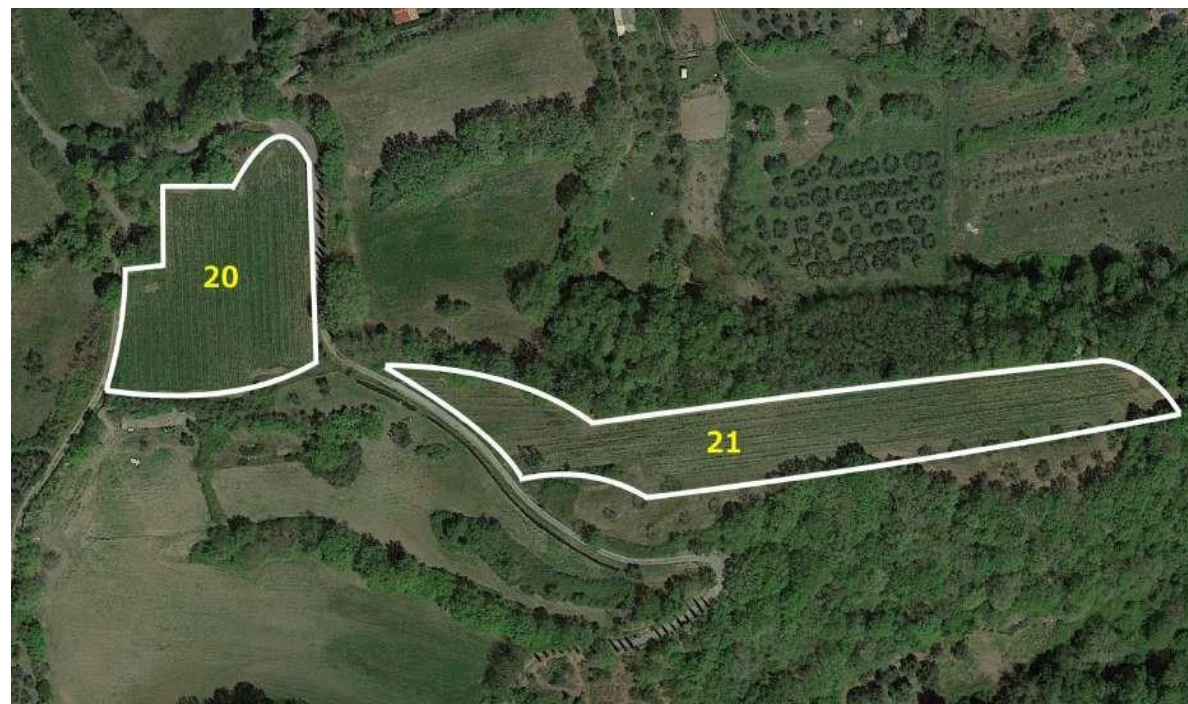
ヴィーニャ・グランデ



D

## 20.21 Vasalone

ヴァサローネ



Le Costeの畑より東南東にあるヴィーニャグランデの畑。湖に近い＝標高がやや低く350M。対してヴァサローネは標高はレ コステの畑と変わらない。  
樹齢が古く生育環境の良いアレアーティコが残っている畑。



## 19.Vigna Grande ヴィーニャ・グランデ

ヴィーニャグランデは2015年に植樹した畑、グレゲット、モスカート、プロカーニコ。植樹したての頃はビアンケットとして、2020年頃よりモスカートはDue M、Rosso R、Biancoとして収穫されている。

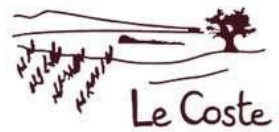
仕立ての間隔は広く、グイヨー仕立て。Le Costeの畑とは求めている収穫量が異なる。ブドウのクオリティはLe Costeに届かないが、収穫量が多くなるように考えて仕立てられている。

ヴァサローネは2009年より借りている畑。2か所に分かれており、1970年に植えられたアレアーティコ。Rosatoの中心的存在になるブドウ。

## 20.21.Vasalone ヴァサローネ



ヴィーニャ・グランデ (2016年)



èVino



**E**  
22 Monte Tónico  
モンテ・トニコ



**F**  
23 Piancabella  
ピアンカベッラ  
24 Piancabella  
ピアンカベッラ



## 22.Monte Tónico モンテ トニコ

モンテトニコは借りている畑。2.3ha程度。もともとサンジョヴェーゼだったが、メルロー、カベルネ、シラーに2023年に接ぎ木している。将来的にはロツソ ディガエターノのブドウにしたいと考えている。標高はあやや低く360m、これまでの畑の中で一番粘土質が強い。一部樹齢の古いカベルネフランもある。

ピアンカベッラは2009年に23のポジションにピノ ノワールを植樹。PNTとなる畑。斜面が険しく傾斜25度ちかい。そして火山性土壌の中でも、レ コステにとって最も重要と語るピアンカが最も強い土地。他の畑から離れている点も、畑の向き、標高、土壌、すべてをピノのために選んで植樹している。クローンは2種、ジュレール シュレールのル シャン デ ゾワゾー(グランクリュ樹齢50年以上の畑)、もう一つは1930年代に植樹されたアルザスで最も古いピノ(ジュリアンメイエ)より。低いガイヨー式。もう一つのポジションには樹齢の古いプロカーニコ、グレゲットがある。Rosso R,Le Vegne Piu Vecchieとなるブドウ

## 23.24.Piancabella ピアンカベッラ



23.ピアンカベッラ